

## 出品目録

番号	名称	出土地	員数	所蔵・保管者
1	古式土師器・埴	米沢市比丘尼平	2	米沢市教育委員会
2	琴柱型石製品	河北町下楨	2	山形県教育委員会
3	子持勾玉	"	1	"
4	有孔円版	"	1	"
5	古式土師器	"	一括	"
6	古式土師器	山形市柏倉坊屋敷	一括	"
7	古式土師器	河北町熊野台	一括	"
8	角材	酒田市城輪	10	酒田市教育委員会
9	鉄滓	"	2	"
10	ふいご羽口	"	1	"
11	刀子	"	1	"
12	砥石	"	1	"
13	陶硯・転用硯	"	2	"
14	墨書土器	"	2	"
15	瓦書土器	"	1	"
16	瓦書文字瓦	"	2	"
17	土器各種	"	12	"
18	瓦各種	"	2	"
19	土錘	"	5	"
20	木筒	川西町道伝	2	川西町教育委員会
21	人形頭部	"	1	"
22	墨書土器	"	70	"
23	転用硯	"	3	"
24	柱根	"	2	"
25	弓	"	1	"
26	土器各種	"	10	"
27	木筒	八幡町堂の前	3	本館
28	斗・肘木	"	2	八幡町教育委員会
29	石帯	"	2	山形県教育委員会
30	下駄	"	1	"
31	火切鑽	"	1	"
32	砥石	"	1	"
33	土器・瓦各種	"	一括	"
34	鉄製紡輪・鉄錐他	米沢市八幡原 №30・31	8	米沢市教育委員会
35	土師器・須恵器	"	一括	"

番号	名称	出土地	員数	所蔵・保管者
36	須恵器大甕	米沢市八幡原№33	1	まんざり会
37	砥石	河北町熊野台	1	山形県教育委員会
38	紡輪	"	3	"
39	土錘	"	3	"
40	瓦書土器	"	2	"
41	土器各種	"	一括	"
42	種子	"	一括	"
43	井戸枠	藤島町平形	一括	"
44	木製品	"	6	"
45	柱根	"	6	"
46	瑞花鳳凰八稜鏡	酒田市境興野	1	"
47	製塩土器	"	一括	"
48	土器各種	"	一括	"
49	緑釉陶器	"	2	"
50	土錘	八幡町茅針谷地	3	"
51	砥石	"	2	"
52	須恵器短頸壺	"	1	"
53	緑釉陶器・古瀬戸片	"	2	"
54	曲物	酒田市北田・関B	2	"
55	墨書土器	"	一括	"
56	土器各種	"	一括	"
57	須恵器壺	酒田市上ノ田	1	"
58	鈔帯金具	米沢市牛森	6	米沢市教育委員会
59	刀子	"	1	"
60	鉄鏝	"	1	"
61	須恵器蓋	"	1	"
62	窯跡出土須恵器	米沢市木和田	一括	まんざり会
63	窯跡出土須恵器・瓦	寒河江市平野山	一括	寒河江高等学校
64	足跡石こう型	山辺町山辺	2	山形県教育委員会
65	条里遺構出土土器	"	一括	"
66	木製箸	鶴岡市中京田	一括	"

## 古代の遺跡を探る

— 県内の発掘調査から —

12月19日(土)～2月28日(日)

## 山形県立博物館

### 開催にあたって

山形県内では、近年開発事業の増加にともなって、記録保存のための大規模な発掘調査が行われ、貴重な新発見があいついでおります。

今回の催し物展は、酒田市城輪柵遺跡をはじめ、川西町道伝遺跡や米沢市八幡原№30・31遺跡、それに八幡町堂の前遺跡など、最近の注目される発掘調査の出土品を展示し、古墳時代から平安時代まで、山形の古代のあゆみを探ろうとするものです。

開催にあたって、県教育庁文化課、県教育庁庄内教育事務所、酒田市教育委員会、米沢市教育委員会、川西町教育委員会、八幡町教育委員会、まんざり会から、ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

昭和56年12月

山形県立博物館長

## 古墳時代の山形

### ◆ 山形の古墳

山形県内には、約250基ほどの古墳が、おもに山形盆地と米沢盆地に分布しています。その多くは、7～8世紀に造られた新しい年代の小規模なものです。近年になって、南陽市稲荷森古墳や米沢市戸塚山古墳群、それに山形市大之越古墳などの5～6世紀の古い大型の古墳があいついで確認されています。

これらの発見から、山形盆地や米沢盆地で、古墳時代前期には、弥生時代に始まった稲作がさらに発展し、各地に村ができ、やがて政治社会が形成され、豪族が出現したことがうかがわれます。

### ◆ 古墳時代の村

県内で発掘された集落遺跡には、米沢市比丘尼平遺跡・河北町下楨遺跡、それに山形市柏倉坊屋敷遺跡などがあります。

遺跡は、稲作に便利な沖積地に立地し、発掘調査により、1辺5～6mの、内部に炉、四隅に柱穴をもった方形の竪穴住居跡が見つかっています。とくに、下楨遺跡では、8棟の竪穴住居跡が東西方向に並んで発掘され、当時の村を調べる上で貴重な資料です。また、比丘尼平遺跡は、竪穴住居跡とともに、方形周溝墓が発掘され、日本海側の北限のものとなっています。

この頃の村は、4～5軒の家が1単位となり、1軒の大型住居の回りに3～4軒の住居があり、それが1つの村となったり、いくつか集まって村をつくっていたと推測されています。



米沢市比丘尼平遺跡の方形周溝墓

## 奈良・平安時代の山形

### ◆ 出羽国の成立と官衙・官寺

和銅5年(712)、出羽国が建国されると、行政機構が整備され、巨大な建物をもつ国衙や倉庫を並べた郡衙、それに都と国府を結ぶ官道と、その途中に駅家が整えられました。また、国府の近くには、官寺である国分寺や国分尼寺がおかれしました。

◦ 出羽国の国衙

出羽国の国衙は、奈良時代には、今の庄内地方におかれ、開拓が進むと秋田城に北進し、平安時代には、再び庄内地方に戻ったといわれています。

秋田城から戻った平安時代の国衙は、酒田市城輪柵遺跡といわれ、近年の調査で、方約720mの築地塀の中に、方約115mの内郭があり、そこに正殿、東西両脇殿、後殿などの建物が規則的に配置されていることがわかっています。また、八幡町八森遺跡は、城輪柵遺跡にあった出羽国衙が一時移った所との説が有力です。



酒田市城輪柵遺跡の東脇殿跡

◦ 出羽国の郡衙

出羽国におかれた郡のうち、県内にあったのは、置賜郡・最上郡・村山郡(平安時代に最上郡から分置)・田川郡・出羽郡・飽海郡で、それぞれに郡衙が設置されておりました。

最近の発掘調査から、川西町道伝遺跡を置賜郡衙、東根市郡山遺跡を村山郡衙の跡と推測されています。

◦ 出羽国の官寺

出羽国にも、国分寺や国分尼寺が造営されたといわれていますが、八幡町堂の前遺跡は、近年の発掘調査から出羽国分寺跡との説が有力となっています。

### ◆ 奈良・平安時代の村

県内で発掘された奈良時代の集落遺跡には、河北町熊野台遺跡・山形市山形西高敷地内遺跡、それに米沢市笹原遺跡などがあります。これらの遺跡からは、方形の、1辺にかまどをもつ竪穴住居跡と井戸跡が見つかっています。

この頃の村は、平地の微高地上に立地し、10軒前後の家があったものと推測されます。

平安時代には、県内各地で、集落遺跡が発掘されており、そのおもな遺跡に、米沢市八幡原 3 0・3 1 遺跡・山形市二位田遺跡・東根市小林C遺跡・尾花沢市原の内A遺跡・藤島町平形遺跡・酒田市北田・関B遺跡、それに、八幡町後田遺跡などがあります。

奈良時代よりも住居の数が増え、30軒前後の家で構成された村が多かったと考えられます。また、この時期は、庄内平野の北東部が、国府の設置にともない、大規模に開拓されたといわれ、集落遺跡も増加します。この集落遺跡の住居は、掘立柱建物が多く、竪穴住居の多い内陸地方となり、地域差を示します。

### ◆ 奈良時代の古墳

県内の古墳の多くは、7世紀に造営されましたが、米沢盆地では、奈良時代になっても、造られました。

米沢市牛森古墳からは、川原石積みの横穴式石室の中から、鍔帯金具・刀子・鉄鏃・須恵器などが出土し、鍔帯金具の型式から奈良時代に造営されたものと考えられています。鍔帯金具は、奈良時代に6位以下の官人の使用した型式です。

### ◆ 奈良・平安時代の生産活動

奈良・平安時代には、農業生産のほか、多くの生産活動の行われたことが、遺跡の出土品からうかがわれます。

農業生産では、奈良時代には、山形盆地で、平安時代には、庄内平野北東部で、条里水田が完成し、生産の増加したことが山辺町山辺条里遺構や城輪柵遺跡周辺の発掘調査から推測されます。

このほか、県内各地の窯跡の存在や、遺跡での製塩土器、鍛冶用道具・紡輪、それに土錘などの出土から、須恵器・瓦の生産や塩の生産、鉄の生産、あるいは、機織物や漁業などが広く行われていたと推測されています。